

教育委員会議事録

令和3年12月定例会

海老名市教育委員会

教育委員会議事録
(令和3年12月定例会)

- 1 日 付 令和3年12月23日(木)
- 2 場 所 えびなこどもセンター201会議室
- 3 出席委員 教育長 伊藤 文康 教育委員 平井 照江
教育委員 酒井 道子 教育委員 濱田 望
教育委員 武井 哲也
- 4 出席職員 教育部長 伊藤 修 教育部次長 澤田 英之
教育部専任参事 萩原 明美 教育部参事兼教育総務課長 中込 紀美子
就学支援課長兼指導主事 小林 丈記 教育部参事兼教育支援課長兼指導主事 坂野 千幸
教育支援課教育支援担当課長兼指導主事 浅井 大輔 学び支援課長 山田 敦司
教育総務課文化財担当課長 押方 みはる
- 5 書 記 教育総務課課長補佐兼総務係長 栗本 欣幸 教育総務課主事 湊 大輝
- 6 開会時刻 午後2時00分
- 7 付議事件
日程第1 議案第42号 令和3年度全国学力・学習状況調査の公表内容について
日程第2 議案第43号 海老名市文化財保護条例について
- 8 閉会時刻 午後3時40分

○伊藤教育長 本日の出席委員は全員でございます。定足数に達しておりますので、会議は成立いたしました。これより教育委員会12月定例会を開会いたします。

本日は傍聴希望者がございます。傍聴者につきましては、教育委員会会議規則第19条に規定されておりますので、傍聴を許可したいと思いますのですが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 ご異議なしと認めます。よって、傍聴を許可します。傍聴人を入室させてください。

それでは、今会の署名委員は、酒井委員、武井委員に、それぞれよろしく願いいたします。

○伊藤教育長 次に、教育長職務代理者に関してでございます。新教育委員会制度になってから、海老名市においては教育長職務代理者を1年の任期で皆さんに務めていただいております。酒井委員には、令和2年12月14日から任期満了となる令和3年12月12日までお務めいただきました。次の教育長職務代理者については濱田委員にお願いしたいと思います。期間としては令和3年12月13日から令和4年12月12日までお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、濱田委員、よろしく願いいたします。

○濱田委員 よろしく申し上げます。

○伊藤教育長 このような形でいきますと、次年度は武井委員にお願いすることになりますので、ご承知おきいただければと思います。

○伊藤教育長 それでは初めに、**教育長報告**をいたします。まず、主な事業報告でございます。

11月19日(金)は、教育委員会11月定例会がございました。教育委員今泉小学校増築校舎工事視察をしていただいたところがございます。同じ日に、初任者授業参観(社家小学校)に行きました。

20日(土)は、運動会(今泉小学校)がございました。11月でしたが、非常に天気の良い日でした。同じ日に、統計グラフコンクール表彰式もございました。

22日(月)は、12月校長会議部内調整を行いました。

24日（水）は、柏ヶ谷中学校総合的な学習の時間見学（こどもセンター）ということで、柏ヶ谷中学校2年生の総合的な学習の時間で、海老名市の行政について様々なことを自分たちで調べて、それをグループごとに提案するというものです。ありがたかったのは、それぞれに関わる市の職員が20人近くいたことですね。それぞれのグループの提案の際に、皆さんに来ていただいて、子どもたちとやり取りしていただいて、市の担当者としてはこのように考えていますよということを素直にやり取りして、子どもにはすごく良い勉強になったと思います。キャリア教育として考えると、これで私は市役所で働きたいという子どもたちが増えてくれるのが一番ありがたいかなと思ったところがございます。

同じ日に、学校ICT活用推進委員会がございました。大和税務署長面会がありました。週部会、教職員転任希望者面接がありました。大和税務署長の面会は、税の作文コンクールというのが毎年あって、大和税務署管内の中学生が作文を書くのですよ。海老名市もそれに応募したのですが、中学生は夏休みにもう1つ、人権作文というのがありまして、学校によっては両方書かせるところもあれば、どちらかを選ぶところもあります。その学年、学年でやるので、できるだけ多くの人に参加してほしいということなのですが、実を言うと、海老名の子どもはとてもすごい賞を頂いたみたいです。子どもたちが作文を書いて、幾つかの賞を海老名で得て、東京国税局の神奈川県代表のような形になって、びっくりしたところがございます。

続いて、25日（木）は、初任者授業参観（大谷小学校）です。かながわ学校給食夢コンテスト表彰（海老名小学校）で、該当の子に表彰状等を渡しに行きました。

26日（金）は、市長定例記者会見、特色ある学校づくり推進委員会がございました。

27日（土）は、皆さんにもご出席いただいて、総合教育会議（有馬図書館・門沢橋コミュニティセンター）を開催したところがございます。その日、指定管理者イベント視察を行いました。

28日（日）は、寄附がございまして、中央図書館書籍消毒機贈呈式を行いました。県インクルーシブ教育推進フォーラムが海老名市の会場で行われました。また、人権作文コンクール表彰式がございました。

29日（月）は、かながわ学校給食夢コンテスト（有鹿小学校）表彰があり、賞状を渡して参りました。また、海老名青年会議所創立40周年記念式典がございました。

30日（火）は、よりよい授業づくり学校訪問（柏ヶ谷小学校）、学童保育クラブ新施設視察に行きました。海老名小学区に新しく学童が立ち上がったところがございます。寒

冷前線による大雨予報対応ということで、本当に寒冷前線が来て、大雨になったので大変だったのですが、それを受けて12月1日（水）に、月の初めから寒冷前線による大雨により登校1時間遅れを行ったところでございます。結果的には、登校時間にはほとんど小雨になっていました。でも、子どもたちにとっては安全に登校できたのでよかったなと思っていますところでございます。同じく、12月1日（水）から、市議会第4回定例会本会議（開会）が始まりました。週部会がありました。一般質問部内調整会議を行いました。

2日（木）は、朝のあいさつ運動で（門沢橋小学校）に行きました。12月校長会議がございました。

3日（金）は、中学校給食に係る打合せということで、今後どのように進めるかということで打合せを持ったところでございます。一般質問部内ヒアリングがございました。

5日（日）は、海老名市防火ポスターコンクール入賞作品表彰式がございました。

6日（月）は、一般質問市長ヒアリングと全国学力・学習状況調査結果報告動画撮影を行ったところでございます。コカ・コーラ支店長面会ということで、毎年3月に海老名市中学校吹奏楽部さわやかコンサートということで、コカ・コーラの支援を受けて、大ホールで吹奏楽部等の演奏会をしています。それで支店長に来ていただきました。

7日（火）は、えびな支援学校生徒会選挙視察（選管支援）に行きました。県立えびな支援学校で行う生徒会選挙を海老名市選挙管理委員会が支援するというので、県立えびな支援学校の生徒が本物と同じ投票用紙、投票箱を使って生徒会選挙を行いました。中等部の子は本当にしっかりしていて、県立えびな支援学校で丁寧に指導を受けると子どもたちはこんなに立派になるのだなと感動したところでございます。中に1人、去年副会長だった子が元有馬中学校の生徒で、私は、当時はもう有馬中学校にはいなかったのですが、よく学校に来てくれたので覚えていましてと言ってくれて、うれしく思いました。

同じ日に、よりよい授業づくり学校訪問（柏ヶ谷中学校）に行きました。

8日（水）は、文教社会常任委員会・予算決算分科会傍聴を行ったところでございます。また、教職員転任希望者面接をいたしました。それから、週部会がありました。

9日（木）は、12月教頭会議です。

10日（金）は、酒井教育委員辞令交付式ということで、議会の初日に承認をいただきましたので、市長室で市長から酒井委員に辞令交付を行ったところでございます。また、臨時最高経営会議がありました。

11日（土）は、中新田小学校もちっこ広場に行きました。不登校支援団体クリスマス会

に行きました。

13日（月）、14日（火）は、市議会第4回定例会本会議（一般質問）がありました。これについては後で教育部長から概要を報告させていただきます。

15日（水）は、ことばの教室・じりつの教室事例検討会に顔を出したところでございます。週部会です。

16日（木）は、社会教育委員会議がございました。今日皆さんにご案内しましたが、来月、えびなっ子いきいきシンポジウム、えびなっ子ふれあいフェスタがあるので、その準備について話合いをしたところでございます。臨時校長会議がありました。新型コロナウイルス感染症対策本部会議があったところでございます。

17日（金）は、市議会第4回定例会本会議（閉会）がありました。

20日（月）は、皆さんに来ていただいて教育課題研究会がございました。

21日（火）は、最高経営会議がございました。

22日（水）は、市教委・校長連絡会（学校予算調整会議）を含め、校長先生方と話合いを持ちました。また、教職員管内・管外転任希望者面接をしたところでございます。

23日（木）は、本日ですが、教育委員会12月定例会でございます。

皆さんからご質問等ありましたらお願いいたします。

○酒井委員 12月3日に中学校給食に係る打合せとありますが、年度内に中学校給食を試行的に実施してみるというお話があったかと思うのですが、どのようになりましたか。

○就学支援課長 3日の打合せ内容といたしましては、中学校給食の給食調理施設に関する基本設計が整いましたので、教育長に報告いたしました。併せて、給食の受入れ体制というところで、1つは有馬中学校の配膳室を、給食を受け入れていくためにどうしていくかというご相談をさせていただいたのと、もう1つは、委員にご質問いただいた中学校給食の試行をどうするかということについて、ご相談いたしました。方向性としましては、2月から3月にかけて、全中学校へ、小学校給食、食の創造館で作った給食を試しに運んでみます。要は配送から配膳、喫食、片づけ、回収までの課題抽出と、生徒の喫食への興味関心や反応を検証するという目的で試行実施をいたします。

○伊藤教育長 大体の予定はできたのですよ。また、1月の折に皆さんにも紹介して、見ていただくことについても、ご希望があればもちろんですが、考えてみたいと思います。さきほども言ったように6中学校、2月から3月の間に全ての学校で試行的に実施します。ただ、学年を抽出する形にはなると思います。

○武井委員 11月28日（日）に中央図書館書籍消毒機贈呈式がありましたが、海老名市内には、そのように海老名市に奉仕したいとか、社会貢献したいという団体があると思います。そして、その中には子どもたちにといいところもあると思いますので、そういったことをこちらから提案してあげるのも良いのかなと思うのです。こういった団体は何が欲しくて、何が必要だというのはいまいち分かっていないように感じるので、ぜひ検討してみてください。

○伊藤教育長 団体として子どもたちのためにということ、何が良いのかなと考えているというのは実際本当にあるかもしれませんね。その辺については積極的に対応していきたいと思います。

ほかにはいかがでしょうか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○伊藤教育長 それでは続けます。

こういう時期ですので、「令和3年をふり返って」ということでございます。令和3年も約1週間になりました。私は子どもの頃から初日の出に手を合わせるというのが習わしで、神社に初詣に行くということがあまりありませんでした。そのため、毎年初日の出に手を合わせに行っていたのが、去年はそれができなかったのです。というのは、大みそかのあたり、要するに12月後半あたりから急に感染が拡大して、私も急にキャンセルしました。代わりに、職員に、神奈川県だとどこで日の出が見られるかなと聞いたら、大磯漁港が良いですよと言うので、大磯漁港に行って、それだけはやらなければいけないと思い必死になって手を合わせたのですが、そうやって令和3年が始まりました。

今年一年も、振り返ると、本当にコロナに振り回された年だったなと思っています。特に子どもたちの教育活動を考えたときには、本当に一喜一憂して、1月の3学期を何とか始められたのですよ。その後、就学支援課が担当なのですが、子どもたちの感染報告が保護者等から入ってくるのです。そのたびに一喜一憂するような感じがずっと続いて、結果的に感染は収まらなくて、ぽつぽつと出てきて、そういう状況で学期がずっと進んでいるのですが、卒業式ができて、入学式ができて。もちろんいろいろな行事に、保護者に対しては普段と違って制限をかけたりして、迷惑をかけたのですが、何とか子どもたちの活動は続けることができました。夏に一気に感染が拡大して、でもオリンピック・パラリンピック自体はやっていたのですが、そういうことを経て、10月になったら落ち着いてきました。私としては、今年一年、教育委員さん方もそうですが、学校、教職員が本当によく頑

張ったなと思っています。

また、いろいろな企業から応援をいただきました。市民の方々から学校教育について応援をいただいて、何とか今年一年過ぎたなと思ったところでございます。

何を言いたいかという、資料の最後のほうに「手前味噌ですが」と書いたのですが、教育委員会の職員は、すごく頑張ったのです。教育委員会事務局の部長、次長、専任参事以下、各課の職員は本当に頑張って、コロナ禍の中、様々なことが中止になる中で、教育委員会の事業は多数できたのです。よくやったなと思っています。10月に海老名中学校の吹奏楽部が全国大会で金賞を受賞といううれしいニュースも飛び込んできたりして。あと、市制施行50周年記念式典も中学生が中心になって進めてくれたり、相模国分寺史跡指定100周年のVRの事業とか、この間を縫って、教委の全ての課がそれぞれの仕事を果たしたなと思っています。そういう意味でいうと、私自身、委員の皆さんにも、職員にも、もちろん子どもたちにも、学校にも、保護者にも、市民の方にも感謝する一年だったなと思っています。

そのように考えると、コロナ禍において、学校ICT関係の様々な事業が進んだりもして、本当に大変でしたが、その中で何かまた新しいものをみんながつくり出したり、努力する、みんなで協力して物事を進めることができたのは良かったかなと思っています。

そこで、最後ですが、今泉小学校の増築校舎がもうすぐ完成します。来年は中学校給食の調理施設の工事が始まります。そうやって考えると、振り返りとともに、令和4年への希望が広がるなと私自身は思っているところでございますので、教育委員の皆さん、来年もまたよろしく願いいたします、ということでございます。

これはよろしいでしょうか。

平井委員 教育長も資料に書いてくださったのですが、教育委員会の皆さんのお仕事ぶりは本当にすごかったなと思います。今までの何倍もの力が必要だったのではないのかと思うのです。その分、学校が安心できたし、保護者にも何人かにお会いして、いろいろなお話をしましたが、そんなに保護者が揺れることがなく、子どもたちが安心して学校に行けたというのも、学校や教育を支える、よりどころとしての教育委員会の存在がすごく大きいと思うのです。そこをがっちり支えてくださったのは大きいのかなと思います。まだ安定はしませんが、学校が安心して学びに力を入れられるというのは教育委員会によるところが大きいと思いますので、大変でしょうが、引き続きよろしく願いしたいと思います。

○伊藤教育長 それでは、よろしいでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 次に、先ほど申したように、市議会第4回定例会本会議（一般質問）の結果の概要を教育部長より報告いたします。

○教育部長 それでは、資料をご覧ください。令和3年第4回定例会（12月議会）一般質問要旨報告（教育部所管部分）でございまして、12月13日、14日の2日間にわたり一般質問が行われまして、12名の議員から13項目についての質問をいただきました。

それでは順次、答弁の内容についてご説明申し上げます。

まず、1人目は日吉弘子議員で、「すべての子どもの安心と子育て支援の充実について」の再質問の中の、「ヤングケアラーの実態調査について」でございまして、答弁といたしましては、夏季休業前に、全中学生にヤングケアラーについてのリーフレットを配付し、周知啓発を図りました。その上で、全中学生対象のアンケート形式での実態調査を、来年1月中旬に予定しており、同時期に小学校高学年にヤングケアラーについてのリーフレットを配付する予定ですという内容でございまして。

おめくりいただきまして、2人目は永井浩介議員で、「子どもたちの放課後について」というご質問で、放課後、教育委員会で行っているいろいろな施策等についての質問がありました。答弁といたしましては、放課後の居場所として教育委員会では様々な施策を実施している（学童保育、あそびっ子、まなびっ子、生活困窮者学習支援など）ことについてご説明をいたしました。また、子どもたちの家庭環境によって、放課後の過ごし方が変わるので、ニーズに応じて、多くの選択肢から子どもたちが選ぶことができるよう、多様な施策を実施してまいります、という内容でございまして。

また、再質問として、こちらに記載のとおりのご質問がございました。

3人目は森下賢人議員で、「史跡相模国分寺跡指定100周年記念事業について」でございまして。答弁といたしましては、大正10年3月に全国初の国史跡として指定されて、昨年度から史跡指定100周年記念事業を実施してまいりました。これまでの調査研究結果から、改めて価値や魅力について深めることができました。史跡指定100年の歩みを振り返ることで、史跡の保存整備、活用に向けた新たな取組について考える機会となって、次世代に継承する一歩となりました。また、市内の史跡や文化財について、今後も多くの方に知っていただくことができるよう、海老名の歴史遺産を次世代に引き継いでいくよう積極的に努めます、という内容でございまして。

再質問は、逆川との関連についてということでした。

続きまして、4人目は相原志穂議員で、2項目の質問がございました。

まず1点目が「小中学校の防犯対策について」でございます。答弁といたしましては、子どもたちの安全安心な学校生活、命を守ることが最優先です。防犯対策については、各学校の「学校安全計画」のもと、不審者を想定した避難訓練や防犯教室を実施しています。これからも、子どもたちを取り巻く社会情勢に応じて、防犯体制の充実と見直しに取り組み、引き続き安全確保に努めます、という内容でございます。

続きまして、2点目が「通学路の安全対策について」でございます。こちらは千葉県八街市の悲惨な事故を受けての質問でございます。答弁といたしましては、通学路における児童生徒の安全確保に向けて、取組について3点例示をさせていただきます。まずは要望による通学路改善、また、通学路安全パトロール、立哨員の配置等に取り組んでいます。通学路の安全対策につきましては、「通学路交通安全プログラム」に基づいて、対応、改善を図っています。このプログラムは、繰り返し見直しを行いながら安全対策を実施するものです。通学路の改善要望を受けまして、庁内各課、また、神奈川県、警察で組織される通学路安全対策委員会において、対応を検討するとともに、必要な箇所の合同点検を実施しています。保護者や地域の方々と連携して、通学路の安全対策について取り組んでまいります、という内容でございます。

続きまして、5人目はつつ木みゆき議員で、不登校の児童生徒の増加に伴って「子どもの居場所について」ということで質問がございました。答弁といたしましては、不登校の児童生徒数が4年連続で200名を超えており、今年度もさらに増加していることから、現状を危惧しています。学校では、「こころの教室」など、教室以外で学べる場を設けており、支援員を配置して、児童生徒が安心して過ごせる環境づくりに努めています。また、学校外では、市の教育支援教室（びなる一む）があって、現在、19名の児童生徒が通室しています。このほかにも、民間のフリースクールや不登校支援ボランティア団体、療育施設、自主夜間中学などがあります。一人ひとりのニーズに応じた学校内外の居場所を作ることが必要であって、学校や各支援団体と連携してその体制づくりを進めますという内容でございます。

続きまして、6人目は三宅紀昭議員で、「海老名市の新型コロナウイルス対応について」という中で、教育委員会に対しましては「遠隔授業の対応状況について」という質問がございました。答弁といたしましては、一人一台端末を活用した授業は、確実に増えて

きています。遠隔授業のための準備として、端末を持ち帰り、接続テストと家庭のWi-Fi環境調査を行った。端末を利用して課題を配付・提出したり、ウェブ会議システムで学校と家庭をつなぐなどの試行を行っております。様々な研修を通じて、教員のICTスキルは着実に向上している。今後も、オンライン授業の試行等によりまして、臨時休校措置となった場合にも対応できるように準備を進めますという内容でございます。

7人目は市川洋一議員で、「昨今の交通事故の傾向とその防止に向けた取り組みについて」という中で、再質問で、「対応困難な通学路への対応について」ということで、改善が難しい通学路への対応についてという内容でございました。答弁といたしましては、今年度の通学路改善要望185件のうち、対応することが困難な事案は40件です。対応が困難な理由としては、歩道内へのコーン設置ですとか信号機新設などであって、幹線道路の交通量や、市が自主的・主体的に対応できないことなどが理由です。県道や信号設置、路面標示などは県が実施主体であることから、県に対して要望を続けます。児童生徒の安全確保に向け、引き続き取り組んでまいります、という内容でございます。

続いて、8人目は戸澤幸雄議員で、「教育環境と子育て支援について」ということで、携行品が重いのではないかと、また、教室内のロッカーの状況、児童生徒の視力の低下に対して補助の検討をしたらいかがかというような質問、要望がございました。答弁といたしましては、学校の教育環境は、安心・安全を第一に、子どもたちが気持ちよく学校生活を送れるものであることが大切であって、コロナ禍においても同様です。児童生徒の視力低下については、社会的にも問題となっており、令和元年度から令和2年度にかけて、本市においても視力低下が出ることは認識しています。児童生徒が生活しやすいよう、教育委員会としても保護者等と連携して取り組みます、という内容でございます。

続いて、9人目は宇田川希議員で「学校給食について」ということで、中学校給食再開に向けての動きと小学校給食の現状、給食費を引き上げたことによる効果などについての質問がございました。答弁といたしましては、中学校給食の完全実施については、令和2年11月に教育委員会で「給食の実施方式」、「建設場所」、「給食調理施設の運営方法」、また、「実施スケジュール」について、方針を決定しました。この中で、建設場所は、食の創造館の東側敷地としました。施設については、鉄骨造3階建て、最大で4,500食の副食（おかず）が提供できる給食調理施設の建設に向け、現在、設計業務に取り組んでいます。令和5年9月の中学校給食完全実施に向けて、常に保護者等に周知しながら、説明責任を果たしてまいります、という内容でございます。

続いて、10人目は志野誠也議員で、「子どもの学習生活支援について」ということで、先ほどの永井浩介議員と若干かぶるような内容ではございます。答弁といたしましては、生活困窮者向けの学習支援事業なのですが、その目的としては、「生活困窮者である子どもに対し、学習習慣の確立及び学習意欲の向上に資する支援を行うことで、子どもの高等学校等への進学及び社会的自立を促し、貧困の連鎖を防止する」ことを目的として、令和元年度から保健福祉部で始まった事業ということで、この事業についてはもともと保健福祉部で実施していて、国の所管は厚生労働省というような状況です。主に学習習慣の確立及び学習意欲の向上を促し、進学等の支援を行う事業であって、教育委員会で実施することが適当であると判断し、今年度から教育委員会で実施しています。現在は、北部地区での新たな事業開始に向けて準備を進めています。引き続き、子どもたちのための支援を充実させるために、これまでと同様に保健福祉部とも連携して取り組んでまいります、という内容です。

11人目は佐々木弘議員で、「新型コロナウイルス感染症およびその影響への諸対応について」ということで、教育委員会における諸対応についての質問がございましたが、主には35人以下学級の前倒しでの実施についての質問でございました。答弁といたしましては、新型コロナウイルス感染症の対策については、ガイドラインの見直しを行い、実施しています。現在、段階的に進められている35人以下学級については、確実に実施します。また、必要に応じて、学校長と協議しながら、市費非常勤講師を配置して対応します、というような内容でございます。

最後、12人目はたち登志子議員で、「子どもとゲームを取り巻く環境について」という内容なのですが、ゲームは必ずしも悪いものではなくて、コミュニケーションツールとしては有効ではないかという視点での質問でございました。答弁といたしましては、ゲーム機やスマホ等でのゲームの時間は、1日2時間を超えている子どもも多い。ゲームは、子どもたちにとって余暇の1つであって、他者とのコミュニケーションツールともなっています。一方、ゲーム依存等、生活習慣が乱れているケースもあります。ルールを守って、上手にゲームと付き合うことが大切であって、学校と家庭とが連携して、啓発してまいります、というような内容でございます。

説明は以上です。

○伊藤教育長 19人登壇して、今言ったように12人の方に対応したところでございます。

それでは、ただいまの報告についてご質問等ありましたらお願いいたします。

○濱田委員 7番の市川洋一議員の答弁の中に「歩道へのコーン設置」とありますが、歩道にコーンを設置するというのは、どういうことですか。イメージが湧かないので教えてください。

○就学支援課長 どういう形の要望が上がっているのかというと、通学路改善要望ということで交通安全プログラムの中で、学校と、PTAの方が通学路を歩きながら確認して、要望として上がってくるものでございます。そういう中で、恐らく柏ヶ谷小学校かと思うのですが、通学路にグリーンベルト、路側帯が引いてあります。ただ、そこは朝、車は一方通行なのですが、結構飛ばしてくるのです。なので、それを抑止するために路側帯の付近にコーンポストを立てて、子どもの安全を守りたい、という要望だったと思います。

○伊藤教育長 歩道の中というより、歩道と車道の境目に設置したいということでございます。

○就学支援課長 自家乗用車への抑止としての設置です。

○濱田委員 分かりました。

もう1点、日吉議員から出ているヤングケアラーの実態調査、年明けには中学生対象で実施する。その次に、小学校高学年にリーフレットを配付する。そうすると、さらに次の段階としては、やはり小学校高学年にも調査をするのですか。アンケート調査をやるのかどうか、教えてください。

○教育支援担当課長 まずは中学生に今年の夏に啓発した後、調査継続で中学生のみで考えているのですが、小学生に関しましては、中学校の動向を見て考えていきたいと思っております。

○伊藤教育長 調査ありきでやるわけではないので、対象としては中高生もちろんあるのですが。小学校段階から自分ではあまり気づかぬうちにヤングケアラーになってしまっている子たちもいますので。

○濱田委員 認識していないでアンケートをとっても、なかなか難しいところですね。子どもたちの理解が進んでいないと。

○伊藤教育長 小学校低学年にリーフレットを渡されても、意味を読み取ることが難しいと思います。でも、高学年なら、ということで、少しリーフレットの中身をつくり変えて、小学生も分かるような形にして、まず配付するということです。

○濱田委員 拡大解釈してしまったり、曲解して、違うような方向へ持っていかれてしまうとすごく大変なことになってしまうのではないかなと思って。ただ単に面倒を見させて

いるだけではなくて、本当に理解しないと。

○伊藤教育長 情報としては無記名なので、誰ということは特定できません。ただ、どれぐらいの子どもたちがそういうケースを認識しているか、海老名市としても全然つかめていないので、子どもたちがどれぐらいそういう認識でいるかですね。個々のケースとしては、今何件ぐらい対応していますか。

○教育支援担当課長 スクールソーシャルワーカーが対応しているのは10件です。

○伊藤教育長 既に10件対応しているので、今回の調査でケースにつなげようという気持ちではなくて、海老名市内の子どもの実態はどうなのかを把握して、それでまた、保健福祉部と連携していきます。

○教育支援担当課長 保健福祉部で、教育や福祉に係るヘルパーや教職員、支援団体の方々という大人側の認識を問うような、あるいは大人のほうで把握しているヤングケアラーの調査をしているところでございます。これは9月の中旬から下旬にかけて調査したところですが、子ども自身が、自分がヤングケアラーであることを大人に伝えるのは非常に難しいので、大人のほうでいろいろな子どもたちの様子からヤングケアラーを見いだしていくというか、早期発見する目を養っていくところが一番かなと思っておりまして、そこは保健福祉部の調査、あるいは我々の調査も含めて進めているところでございます。

○伊藤教育長 ほかにはどうですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、議会報告は以上といたします。

.....
○伊藤教育長 それでは、審議事項に入ります。

○伊藤教育長 日程第1、議案第42号、令和3年度全国学力・学習状況調査の公表内容についてを議題といたします。

説明をお願いします。

○教育部長 それでは、資料1ページご覧ください。議案第42号、令和3年度全国学力・学習状況調査の公表内容についてでございます。本件につきまして議決を求めるものでございます。

資料をおめくりいただきまして、3ページをご覧ください。趣旨でございます。令和3年10月29日の定例教育委員会におきまして、令和3年度全国学力・学習状況調査結果の公表とその方法についてご決定をいただいたところでございます。今般、海老名市の調査結

果と市内小中学校の調査結果を集約し、冊子としてまとめたものでございます。このようなことから、別添資料の早期公表を行いたいということで、今回ご決定いただきたい内容は3ページの2、公表内容でございます。

まず(1)令和3年度全国学力・学習状況調査、海老名市の結果と、(2)令和3年度全国学力・学習状況調査、学校の調査結果(19校分)の公表内容につきまして本日はご決定いただきたいものでございます。

3、経過及び今後のスケジュールをご覧ください。本日は12月23日で、本日ご決定をいただければ、ご決定いただいた後に実施学年の各家庭に各校の結果冊子を一斉配布いたします。こちらはSumaMachiという学校メール機能を活用して配信したいと考えています。また、そのホームページに各校の結果冊子と市の結果冊子を公開するとともに、海老名市役所情報公開コーナーにおきまして冊子を配架したいと考えています。

それでは、公表内容につきまして坂野教育支援課長からご説明申し上げます。

○教育支援課長 それでは、令和3年度全国学力・学習状況調査の海老名市の結果と各学校の結果の資料をご覧くださいと存じます。

まず、海老名市の結果です。表紙をおめくりいただいて、その裏面、丸囲みの下のところに、公表の目的、内容、方法について書かれています。目的については以前お話ししたとおりです。今回お話ししたいのは内容のほうで、内容につきまして少しご説明いたします。まず、市全体の結果は、記載のとおり、平均正答率、質問紙の結果を、全国・県との比較で、数値や文章で表記するものです。また、「ダイジェスト版」と「結果概要」を記載いたします。ダイジェスト版は隣の2ページに当たります。また、結果概要は、3ページ、4ページとなります。そこから先は、学力調査結果と質問紙の結果なのですが、学力調査結果につきましては、例えといたしまして、7ページと8ページをお開きください。小学校国語であれば、内容の分析ごとに今後の具体的な取組、指導に生かせる内容につきまして、指導の改善に向けてお示ししてあります。

また、質問紙調査は16ページ以降なのですが、こちらにつきましては地域や家庭と協力して取り組むことにつきまして記載しております。また、クロス集計、経年変化につきましてもお示ししております。市の結果としては、このような内容で公表したいと思えます。

また、各学校の結果、別冊で19校分があると思うのですが、そちらにつきましては全校同じ構成で公表したいと思えます。ただ、様式や内容については若干学校の裁量としてあ

りますので、表現に多少ずれはあるのですが、どの学校も平均正答率等は記載せず、文章での表記で公表していきます。学校によっては一部載せているところもあるのですが、他と比較するとか、そういうことではなく、こういった表現で載せています。

また、分析とともに、今後の具体的な指導内容のポイントを踏まえて、どのように改善していくかというところを明確に記載しております。そして、ご家庭でご協力いただきたい点についても、それぞれ記載しております。

内容につきましては以上でございます。ご審議のほど、よろしく申し上げます。

○伊藤教育長 それでは、市の結果の内容、市のほうは数値で全体を示す。各学校の内容、項目はそれぞれあるのですが、文章表記でその結果を公表するというのが趣旨でございます。それについて皆さんから、ご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。

教育内容の部分があるので、市民の方々が全て分かるかということ、用語が専門的だったりするところも、これをかみ砕いて、分かるまでとなると少し厳しい状況があります。だから、市民の方々に説明の機会をとということで、過去はそういうこともやったのですが、あまり人が集まらないとか、そんなに関心がないということもあったりします。ただ、保護者とか、今、学校に子どもを通わせている方々については関心が高いところなのかなとは思っているところでございます。

○酒井委員 この結果を見せていただいたときに、私自身は結構ショックを受けました。小学校の算数の三角形の面積の正答率が、全国が55%なのも驚きましたが、海老名市が45%なのにもすごくびっくりしたのです。ちょっとこれはまずいのではないかと。今まで習ったものをしっかりと復習しながら、もっと学習に対して真摯に、子どもだけが取り組むのではなくて、親も、先生も、もちろんやっていますけれども、全体としてもっと取り組んでいかないといけないのではないかと。そういう意識を持つという意味でも、今回の公表はこういう形でぜひやっていただきたいのですが、もし可能であったら、5年生でなくて、3年生とか、4年生とか、テストを受けるようになる前の学年のお子さんや保護者の方に、正答率が50%を切るような現状があるのだということを知る機会を作っていただきたいなと思います。学校、学年のお便りの中で取り上げてもらうとかでも良いし、そういうことを知ってから子どもの毎回のテストの結果を見てみると、保護者の気持ちも違うのかなと思います。せっかくやったテストなので、今回だけでなく、息の長い公表の仕方、アプローチの仕方を少し考えていただくと、よりこの結果が生きてくるのではないかと思いますので、お願いできたらなと思います。

○**教育支援課長** まさにおっしゃるとおり、三角形については5年生の授業内容なのですが、例えば国語であったら漢字の書き取りがあまりよろしくない。でも、それは、実は2年生や3年生のときに習っている漢字だったり、要するに学びがちゃんとつながっているんだということをここで改めて教職員の指導改善にむけて、あくまでも得点だけではなく、全ての教員にとってのメッセージという形でこちらとしては示すつもりでやっております。

また、三角形の面積の件は私たちも本当にショックで、現場の先生方もショックでした。そうすると、何がいけなかったのだろうということで、先生方の授業の協働の目的の1つ、学校が指導の改善に生かす、まさにここにつながるところで、例えば公式だけを覚えさせれば良いというものではなくて、そもそも面積とは何かとか、そのために何が条件として必要になるか。そこをもっと子どもたちが主体的に、また、対話的に解決していけるような感じの授業改善、資質向上につなげていこうと思っております。

○**酒井委員** 今回動画を教職員向けに作られたということで、多分それを皆さんに見ていただけなので、先ほど坂野教育支援課長がおっしゃったように各教員にそういう内容がしっかり理解していただけるようになるのかなと思います。期待していますので、よろしくをお願いします。

○**教育支援課長** ありがとうございます。

○**濱田委員** 1ページ目でお話しになった公表の目的の中に、先ほどおっしゃられたように、上から4つ目の丸に「保護者・市民に公表し、学習習慣や生活習慣の改善に向けて協力を得る」となっていますが、市民に協力を得るというのは、具体的に言うとうちのイメージされているのか、教えていただきたいと思います。

○**教育支援課長** 主に保護者向けにはなっているのですが、実は質問紙調査結果の概要にもあるとおり、小学校、中学校とも、地域・社会への関心や行事参加等について課題が見られるという結果になっております。こういう面からしても、今コロナ禍でなかなか大変なことはあるかとは思いますが、やはり地域の方にもご協力いただきたいというところをお示ししていきたいと思っております。それが25ページの内容です。そこに、ご家庭でご協力していただきたいこととして大きく4つ掲げてはいるのですが、この中の一番下のところ、地域に向けての発信でございますので、ぜひお願いしたいと思っております。

○**濱田委員** そうしたら、ダイジェスト版の4番の8項目、教育施策がいろいろとありますよね。その中で下から2番目ですか。「学校応援団」による学校支援を進めていますと

言っているようなところもあるのであれば、例えば社会教育団体など、そういう皆様方にも、今、地域社会とのつながりがなかなか難しく、地域活動に参加できない調査結果になっていますよというのを意識してもらえそうな公表も1つあるのではないかなと思うのですが、社会教育団体であればある程度状況は皆さん了解されていると思いますので、コロナ禍の中で大変難しいとは思いますが、何とか小学校低学年、せめて小中学生の頃から地域とのつながりをしっかりと作っていくのが海老名の教育に1つあっても良いかなと思いましたが、よろしくをお願いします。

○教育支援課長 ありがとうございます。26ページ以降に学力向上のための「8つの教育の施策」について載せさせていただいているのですが、まさに今おっしゃられたのは30ページの上段に関係しています。市民の方や地域の方に、教育活動や学校環境についてアピールできるようにしていきたいという趣旨でございます。これを公表することで8つの教育施策を市民の方に披露する。先ほどの質問の答えの1つになるかと思うのですが、こういった形でお示しできるのかなと思っています。

○濱田委員 よろしくお願ひいたします。

○伊藤教育長 学校応援団の方々については連絡会が年に何回かあります。皆さん関心が高いので、これをお示ししたら、ああ、海老名の子どもはこんな感じなの、と受け止めてくださって、では、私たちはこうしましょうという形で結構響く場面があると思いますので、学び支援課長から学校応援団の連絡会でこれを取り上げて、ご説明していただくということで、よろしくをお願いします。

○武井委員 1ページ目の「市の結果」のところで、平均正答率のところに書いてある「数値や文章で表記する」という部分が、全体的な数値は出ているのですが、各学校別の結果は、公表はしないにしても各小中学校の校長先生ぐらいいまでは分かるようになっていのでしょうか。

○伊藤教育長 教職員には共通理解できるようになっています。外に出すことはないですが、教職員にはその実態を知っておいてもらいたいです。

○酒井委員 地域とのつながりが10ポイントぐらい違うではないですか。結構悲しくて、近隣の市町村ではそんなに差はないのですか。うまくいっているところはどんな事例があって、どのように活動していらっしゃるのかとかを知る機会があれば、やり方を参考にできないかなと思うのですが。どちらかというと、子どもたちに何かしてくれる団体が欲しいのではなくて、子どもたちが何かする機会のほうが本当は必要なのではないかなと思っ

たりもするので、いろいろなネットワークで情報を集めてもらって、そこら辺を研究してみると良いと思うのですが、どうでしょうか。

○教育支援担当課長 今回分析をしたところ、神奈川県は全体的に低いのです。それを東北や九州などの地方と比べると大分数値がずれているところがありました。ただ、例えば学校で、かかしまつりに子どもたちが参加したりとか、お祭りに参加したりとか、実際は地域の方々と結構触れ合う機会が多くあっても、触れ合った子どもたちが実際に翌年にこの調査をすると、地域とのつながりを感じている子は、3割とか、2割とかになってしまうのです。ですから、地域の行事に参加しているのに、地域の行事に参加していないというところがあったのですね。それで、学校のほうはどう考えていったかというところ、それを受けて、一緒にやったださる方々も、その目的や狙いを子どもたちも、学校も、そして地域の方も共有した上でかかしまつりに参加するとか、稲作活動に参加するとかいうことをすると、子どもたちの中に、ああ、自分たちは地域の行事に貢献しているのだとか、かかしまつりはこのような形で今まで培われてきたのだということを学ぶようになります。すると、その学校区、地域についてのアンケート調査は高くなります。ですから、今までは、毎年やっている行事だから、5年生になったら総合学習でかかしまつりをやるものと思っていたものに意味づけをすれば、それで地域の行事に自分たちは貢献しているのだという意識を子どもも持つし、教師も持てるようになります。一緒に関わってくださる地域の方々にも事前打合せをして、そのように投げかけてくださると、そういう意識が高まっていくということなので、やるだけではなくて、関わった方々がみんなそういう目的の下、意識を持って、そういう地域の行事に関わっていくことがすごく大事なことかなということは学びました。

○酒井委員 行事にはそれなりに参加しているのに、どうしてかなと思ひまして。

○教育支援課長 直接こことは関係ないのですが、中学校区の学校運営協議会に参加して地域の在り方を協議したときに、やはり子どもたちは地域の人と顔見知りとか、どこの誰か、それが分かって初めて地域でやっているという実感が込められるのではないかという意見が出たのです。なので、これをきっかけに、恐らく各学校運営協議会で説明されているかと思うのですが、その中で、ぜひ顔見知りとか、より深い関係になれるような方策を学校とともに地域の方と一緒に作り上げていけたら良いのではないかと、というのがそのときの話の中身としてありました。そこも含めて学校運営協議会にもお願いしたいと思っています。

○伊藤教育長 分析としては、子どもたちの生活って、社会をそのまま反映するのですよ。そうやって考えたときに、私が最初に言うことは、保護者が子どもを連れて、何か地域の行事があったら積極的にそこに参加するという家庭のアプローチがないと改善しない。子どもたちがやるのだから、神奈川県等に聞くと、地域のつながりということで、例えば何々神社でお祭りがあるといったときに、みんな一緒に行こうぜ、と言って親も一緒に連れて行って、そこに参加するなんていうことになると、今の状況を見ると、多くの人たちがそこに参加するかというところではなくて、むしろ参加する人は少ないということなのです。また、子どもたちの行事参加についても、子どもはたくさんいるのですが、地域の行事に参加する子、またその担い手になっていけるような子どもたちが少ない。だから、自治会の加入率とか、そういうものも含めて、1つの問題点として、子どもたちにもそれが波及している姿がここに出てきてしまっているというのが実際のところで、これは1つの課題なのです。ある意味、こういうものが出たから、大人たちみんなで子育てをする、要するに地域の子どもを皆で考えよう、という問題提起がされているということだと思っています。

だから、子どもが悪いという意味ではなくて、地域としての問題が提起されているということなので、学校運営協議会だけではなくて、地域全体で考えていくことがここでは必要なのかもしれません。そうでないと、改善は難しいのかなと思います。

○濱田委員 やはり急速に社会が変化しているので、どうしてもつながりがどんどん薄くなっていてしまっているというのはあると思うのですが、何とか親世代や我々の世代が一生懸命やらないといけないのかなと思いますね。

○伊藤教育長 だから、家庭で子どもたちも一緒に連れて行って、行事に参加しようという形で大人がつながないといけないですね。でも、その大人たちも地域のつながりを避ける傾向があるのですよ。

○武井委員 自治会には入らないけれども、町内のイベントには参加すると言って、行って良いのか悪いのか分からないような状態の子たちが多いですね。

○伊藤教育長 そういう子たちは多いです。だから、子どもたちの学力・学習状況調査が社会に反映されているのがある種面白いというか、興味深いところです。

○濱田委員 だからこそ、市のいろいろな部局に対して、こういう結果が出ましたよと、例えば市民協働部とか、そういうところに情報を投げかけるのも良いのではないですか。

話を交えてしまいます。23ページの「ICTの活用」の市の中学校が25.6ポイントし

かないのですが、これは端末がまだ行き渡っていなかったときの調査だからという理解でよろしいのでしょうか。

○教育支援課長 はい。調査をしたのが5月で、1人1台端末を活用したのがその後ですので、この結果になっております。

○濱田委員 では、現時点であればもっとポイントは上がるのですね。

○教育支援課長 はい。

○濱田委員 分かりました。

○伊藤教育長 内容としてはそれぞれ改善点もあるところだとは思いますが、これをさらに多くの人たちに周知する中で1つの良い方法が見えてきたりすることもあるのかなと思うのです。平井委員はいかがですか。

○平井委員 先ほどの地域の行事というのは、いつ調査をかけても同じ結果で、今後ますますパーセンテージが低くなっていくのだろうと思っています。地域とつながりを持っていくには、学校の中に地域力をいかに生かしていくかというところを考えていかないと、なかなか難しいのかなと思うのです。子ども自らが地域の中に飛び込んでいく機会は少ないですから、学校の教育課程の中にいかに地域の力を取り入れていくかが大事です。低学年の生活科の中のお正月遊びとかでも、地域の方に来ていただいて、一緒に遊んでもらったりもするのですよね。それぞれの学年の中でいろいろな力を持った地域の人たちの力を借りていく、そういう中で子どもたちが地域と結びついていく。行事という形に限定してしまうと、課題が多くて、今後これがプラスになるかといえば、私は現状維持よりもマイナスになっていくのではないかなと思うので、これについては結果として受け止めて、その上で何ができるか考えていくべきではないかなと思います。文部科学省が出しているアンケートなのでここで意見を言っても仕方ないのかもしれませんが。

もう1点は、各学校でそれぞれの観点からよくできている点や課題点をまとめてくださっていると思います。そういう中で少し気になるのが、全国平均より何パーセント下回っているという表現をしているところが何教科かあるのです。保護者にそういう表現をしても、ほかの資料と照らし合わさなければ分からないので、もう少し具体的な情報があっても良いのかなと思います。親もどれだけこれに関心を持つのかなという心配もあります。ですから、この結果と分析については、下の学年に情報を下ろしていく必要があるし、各学校でそこは取り組んでいく必要があるのかなと思うので、課題の部分は、次年度はそのような工夫をしてほしいと思います。

○教育支援課長 具体的な施策につながる内容は先のページに盛り込まれておりますので、今年度につきましては、こちらで結果とさせていただきたいと思えます。

○平井委員 それはそれで良いと思えます。ただ、全国平均がどれだけなのかが分からない中で、例えば20%と言われてもそれがどの程度のものなのか。もう少し具体の部分が見えないと、受け取る側が何を基準にして良いのか分からないので、そのあたりのところをもう少し手を加えてもらいたいですね。全国平均はダイジェストで出ていますので、調べれば比較はできると思えます。読み手としては、そのあたりをもう少し丁寧にしてもいいです。

○伊藤教育長 ほかにいかがですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、ほかにご質問等もないようですので、公表の内容ということで審議をいただいているところでございますけれども、議案第42号について採決してよろしいですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 それでは、この件について原案のとおり可決することに異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 ご異議なしと認めます。よって、日程第1、議案第42号を原案のとおり可決いたします。委員からさまざまな提案がありましたので、公表に当たっては、それを含めて検討を進めてください。よろしく申し上げます。

○伊藤教育長 続きますして、日程第2、議案第43号は、令和4年第1回海老名市議会定例会へ上程する予定の案件でございます。海老名市教育委員会会議規則第18条第1項第4号に該当することから、会議を非公開としたいと思います。

それでは、会議の非公開について採決を行います。日程第2について会議を非公開とすることにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○伊藤教育長 ご異議なしと認めます。よって、日程第2を非公開といたします。

つきましては、傍聴人の方には退室をお願いいたします。

(非公開事件開始)

(非公開事件終了)

○伊藤教育長 それでは、以上をもちまして本日の日程は全て終了いたしましたので、教育委員会12月定例会を閉会いたします。